

11月24日(水)～28日(日)

鷺森
別院

親鸞聖人750回大遠忌法要勤修



世のなか
安穩なれ

本願寺鷺森別院
親鸞聖人七百五十回法要

二〇一〇平成二十二年十一月二十四日(水)～二十八日(日)

法要
24日～27日 毎朝午後1時30分より
28日 午前11時から
※27日の夜通し及び夜通し法要はございません。

布教使
24日・25日 加藤謙吉 師 (大塚地区)
26日 北島良雄 師 (東北地区)
27日 森本實徳 師 (西宮地区)

つどい
午前10時30分より(受付10時)
24日 寺親善会
25日 仏教研究会
26日 門徒親代会
27日 仏教婦人会
28日 子どもの集い(少年対象行事)

催し
27日 別院婦人会・お香阿・うどん販売
別院若さき会・健康コープ
社協・パワ
本願寺出版社・音聲別院

浄土真宗本願寺派 本願寺鷺森別院
和歌山市鷺森1番地 TEL073-422-4677

鷺森別院では、来る11月24日から28日までの5日間「親鸞聖人750回大遠忌法要」が厳修されることになり、現在その準備に取りかかっており「法要を通して宗祖のお心をともに味わわせていただきたい」と多くの方々の参拝を呼びか

けている。同別院では例年この期間中「報恩講」が営まれていたが、今年はとくに大遠忌法要として営むもので、早くも法要への気運が高まりつつある。法要の内容については、24・27日は「宗祖讃仰作法第三種 音楽法要」25・26日は「宗祖讃仰作法第一種」が勤められる。また、例年通り、24日は寺族婦人会、25日は仏教壮年会、26日は門徒総代会、

27日は仏教婦人会がそれぞれ教化団体の参拝奨励日となっており、28日は約3000人の子どもらが参加して、「子どもの集い」が開かれ、「親と子で多く参加してほしい」としている。法要は、午後1時30分から営まれ(28日は午前11時から)、法要終了後には「御伝鈔」が24日から27日までの4日間で上下段が拝読される。また、ご法話の講師は24・25日は加藤順教師、26日は北島晃融師、27日は森本覚修師。連日法要前の午前中には、参拝者の集いが行われ、大遠忌に向けて機運を盛り上げるためにDVDが放映され、午後からの法要のお勤めの練習の時間も設けられており、法要では、参拝者全員で「宗祖讃仰作法」がお勤まりになる。鷺森別院の杉本正信輪番は「宗祖の大遠忌法要を通して、法要のスピーカーガンで、聖人のお心である『世のなか安穩なれ』の願いを広く社会に伝えられるような法要にしたい」と

発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
編集 教区報編集委員会
和歌山市鷺森1番地
鷺森別院内
電話 和歌山(073)422-4677
FAX 和歌山(073)428-2450
発行人 杉本正信

なお、和歌山には10月7日に市内に入り、先に海南組の了賢寺・浄国寺で分灯され、鷺森別院に到着後は、本堂で分灯し、尊前に点火されることになっている。また、この灯火は、大遠忌法要の際にも点火され、別院での大遠忌法要の幕開けを飾ることになる。



話しており、多くの参拝を呼びかけている。なお、団体参拝については事前に申し込んでほしいとしている。「安穩灯火リレー」の開幕 「灯火リレー」は、大遠忌法要の記念事業として行われるもので、法要に向けて参拝への意識を高めることが目的。先月16日、本堂で分灯式が行われ、北南の2コースに別れ、最終10月8日まで行われることになっている。

鷺森テレホン

紙上法話

岩清水 昌子

(和歌山教区 本願寺派布教使)

阿弥陀さまは生きとし生ける
「命」の行方を案じ「ひとり
も漏らさず救う」と願ってくだ
さる仏さまです。

「みんな救う」のお呼び声
は、他でもない私が目当てであ
ったと聞かせていただいた時、
手が合わさり、お念仏申さず
おれません。

わが家の子どもたちが中学生
になって、クラブ活動で吹奏楽
を始めました。おかげで難しく
感じていたクラシック音楽への
垣根が低くなり、演奏会も楽し
めるようになりました。

そして、少しばかり理解が深ま
って知らされたことがあります。

それまで、楽団は大人数だか
ら合わせるのが大変だろうと思
っていたのが、そうではなく、
一人ひとりの技術と音色が確立
されているからこそ、美しく洗
練された音楽が出来上がるのだ
ということでした。

一人ひとりがそれぞれのパー
トに真剣に向き合って、それが
何十人も集まって一つの音に仕
上がっているのです。

「みんな救うとのお呼び声」

一見単純な音にも、確立され
たいくつかの楽器の音色が重な
っています。

奏者の人生さえ飲み込んだ楽
団の、美しくもダイナミックな
演奏に感動しながら、お浄土に
想いをはせたことでした。

「相好そうごうごとに百千ひゃくせんの ひかり
を十方じゅうほうにはなちてぞ つねに
妙法みょうぼうときひろめ 衆生しゅじょうを仏道ぶつどうに
いらしむる」『浄土和讃』

阿弥陀さまが「ひとりも漏ら
さず救う、あなたの手を取り逃
すようなことがあったら、私は
仏とならない」と誓ってください
るお言葉。みんな救うという
「みんな」を成し遂げるために
は、たった一人のこの私の全て
を知りぬき、仏となりようのな
い私のための手だてを完成させ
なくてはならないのです。

「あなたのことは私が引き受
けましたよ、安心してこの世の
ご縁を生きぬいていらつしゃ
い。私は南無阿弥陀仏となって、
いつもあなたに寄り添っていま
すよ。」とお言葉を依りどこ
ろとして、私の一日一日をお念
仏と共に、歩ませていただきました
と思います。

鷺森テレホン 法話

24時間いつでもどこからでも

3分間法話が聞けます。

073-422-0243

おにしさん

有田北組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 巖修

キッズと共に「みかんの里にお念仏の輪を」

有田北組 組長 菅原 勲



去る6月5日(土) 有田川町「きびドーム」に330余名が参集して「有田北組大遠忌お待ち受け法要」が巖修されました。私たちがこの法要に、次の世代のみ教えを担うキッズ(仏の子)と若い家族の方々にご法縁を結んでいただくことをねらいとし、また併せて、日頃は顔を合わせることもない組内寺院子弟の法要への積極的な参画と交流の機会にすることも目指しました。

法要には「日校せいてん(少年

連盟)」を記念品として配布して用い、その後の活用をお願いしました。

「キッズ代表の開式の言葉」は、「三つのやくそく」から始まり「み仏の光のもとに」を意味するロゴマークを付けたオリジナルTシャツと式章をユニホームにした105名の「キッズの献灯献華」をメイン行事に位置づけて法要を進めました。ぶっつけ本番のキッズたちの緊張の中にも心を込めて合掌する姿はとても感動的でした。



三具足のお莊嚴に加え、1000余りのグラスに彩りよく飾られた華々と美しくゆらめく花ロソクを前に、結衆・列衆と共に参集した全員が「正信偈」を声高らかにお勤めいたしました。事前の周到な準備と進行に尽くしたスタッフの苦心と努力が見事に実を結んだと思います。

後半は、和歌山教区杉本正信教務所長から本願寺派総長祝辞をいただき、法話楽団「迦陵頻伽」4名による「歌と法話の集い」を2部構成で行いました。

「しんらんさま」に始まり「みかんの花咲く丘」や「シャボン玉」などを歌いながら、主宰の西脇顕真師が「いのちの尊さ」や「いたわりの心」などを、わかりやすく語りかける音楽法話には、キッズとその家族は感動に目頭を熱くする場面もありました。「故郷」を合唱した後、門信徒代表が「浄土真宗の救いのよろこび」を拝読、みんなが唱和しました。全員の「恩



徳讃」合唱を最後に、よろこびのなかに無事法要を終了しました。

キッズに「仏さまにお供えて今日の話をしてください」とコメントを添えてグラスと花ロソクをプレゼントしたので、帰宅後、話が盛りあがった家も多かったそうです。

一方「仰法幢(自照社刊)」を各寺院へ記念に配布して、組内の寺院後継者に「勤行は内容を理解して勤める」ことの一助にと願いました。

この法要を機縁に「みかんの里にお念仏の輪」が広がることを強く念じています。

和歌山西組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 巖修

92人がおごそかに帰敬式を受式

和歌山西組 組長 小川 史 乗

和歌山西組は、去る6月12日(土)、和歌山市本脇「法専寺」において、「親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要」が勤修され、220人が参拝した。



梅雨の時期で心配したお天気も、法要当日は晴天に恵まれ、本堂に入りきらないほどの参拝をいただき、法要は厳肅な雰囲気の中で「正信念仏偈作法」がお勤めされました。

記念式典では、杉本正信教務所長から、橘総長の祝辞をご披露いただき、「来る平成23年4月にお

迎える親鸞聖人750回大遠忌法要の機運を盛り上げるために、組内の皆様方のご尽力をいただきたい」とご挨拶をいただき、引き続いて荻野昭裕宗会議員からの祝電が披露された。

記念法話では、御坊組専福寺前住職 清水正宣師から「親鸞聖人90年のご生涯(4期)」をお話しいただいた。

第1期は、比叡山の20年を含む京都での35年間。
第2期は、越後での7年間。
第3期は、関東での20年間。
第4期は、晩年、京都での28年間。

「そのご生涯のなか特筆すべきことは、山(比叡山)にのぼり、そして山を降りられたこと。すなわち、雑行を棄てて弥陀の本願に帰されたこと。そして妻子を伴っての家庭生活の苦悩から逃れられないなか、その人生苦を根底から救い給う教えは、弥陀の本願以外には考えられない。私たち凡夫は聴聞に心がけ、今生において正定

聚に住し、お浄土に生まれて弥陀同体の悟りを開かせていただきましょう」と、締めくくられた。



記念式典終了後、法要行事として実施をいたしました「帰敬式」には92人が受式され、本山よりご出向いただいた武田照寧師が、一人ひとりにおかみそりを当てられ、法専寺門徒の野嶋廣子さんが帰敬文を読み、野島義弘さんが法名を拝受されました。

なお、今回の会場としてご苦勞いただいた法専寺様では、昭和36年10月2日にも「和歌山西組親鸞



聖人700回大遠忌法要」がお勤めされており、当時の写真を見な



49年前の700回大遠忌法要の写真

がら同寺坊守の栗本みずほさんは「このようなご勝縁に二度も法専寺がえらばれたことは本当に不思議なご縁です」としみじみと話していました。

伊那組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 厳修

お念仏の輪を紀ノ川に

伊那組 組長 藤岡 行人

今年の梅雨の長雨と豪雨は、例年になく厳しいものでありましたが、幸いにも当日は法要が終わるまで降雨がなく、「お念仏の輪を紀ノ川に」をスローガンに、

平成22年6月19日(土)、かつらぎ町「あじさい会館」にて、「伊

願いを込めて掲げたものであります。

「もう一度法要のご縁を」

那組お待ち受け法要」を修行させて頂きました。

法要は、「正信念仏偈作法」をお勤め致しましたが、参拝の皆様方のお声と共に場内に響きわたり、「もう一度このようなご縁にお会いしたい」との声が出たほどでありました。



今法要は、伊那組始まつて以来の合同法要というところで、緊張感をもって準備を進めて参りましたが、法要委員59名のご協力を得て、所期の目的を達成することが出来、誠に喜ばしい限りでありました。

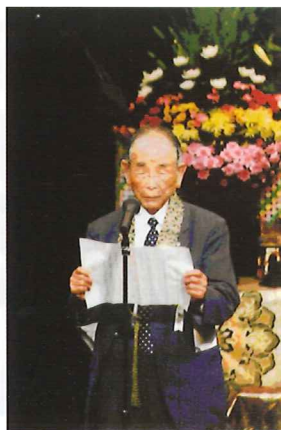
スローガンの「お念仏の輪を紀ノ川に」については、お念仏の声が紀ノ川流域に響き渡りますように、そして、やがては海を越えて全世界に発信されますようにとの



その後、法要式典が執り行われ、組長の挨拶と杉本正信和歌山教務所長様から本願寺総長様のご挨拶状の紹介とご挨拶を頂きました。

ご法話は、上山大峻先生の「私の歩む念仏の道」を聴聞し、親鸞聖人がお示しくくださったお念仏の心を、共に喜ぶことが出来ました。

続いて、合唱団「迦陵頻伽」による童謡と仏教音楽を拝聴、常々拝見している寺族女性の方のお姿とは少し違った素晴らしいユニホーム姿とお声で楽しませて頂きました。



最後に伊那組門徒総代会々長、大西利夫様の「決意表明」があり閉式となりました。

私たちは、この大遠忌を契機として「お念仏相続の心がさらに深まるよう」努めていかねばならないことをあらためて痛感した次第であります。

有賀組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 厳修

僧侶と門信徒が心をこめてお勤め

有賀組 組長 笠井照導

去る7月4日(日)「親鸞聖人750回大遠忌有賀組お待ち受け法要」が、組内西方寺を会所として勤修されました。当日は雨天続きのなか、たまたまの晴天にめぐ

まれ、満堂の参拝者のもと、午後1時から法要、記念法話、話し合い法座と厳かなお勤めでありました。

さて、この法要の勤修について、

昨年7月の組内会においては、毎年7月に開催される「組内仏教壮年連盟と組仏教婦人連盟の合同研修」という研修会の前に併修する法要にしよう

と合意されました。

ところが、その後、組内の「門徒総代会総会」や「門信徒会運動研修協議会」において、お待ち受け法要について協議を重ねる中、ご門徒の中で法要を盛り上げていきたいという機運がたかまりました。そこで、研修会の付け足しとしての法要ではなく、あくまで法要



そのものを中心として盛大にお勤めしようという意志統一がなされました。

また、本願寺の特別法務員で組内西方寺衆徒の玉川直城師の指導のもと、差定研修会・作法のりハールを重ねたことにより、当日は心のこもったお勤めとなりました。

当組は、過疎化、高齢化により行事を開催しても参加していただき



る人が少ないという悩みをかかえています。当日は親鸞聖人のご苦勞を偲び、お徳に報いるための法要にお会いしたい参拝者で満堂になり、僧侶と門信徒が「正信念仏偈」を勤め、お念仏の声が高らかに響きわたりました。

また、記念法話として、本願寺派布教使の藤下恒庸師から、お待ち受け法要に意を配したご法話を頂きご聴聞できましたこと、誠に有難く感無量であり、来年お迎えする「親鸞聖人750回大遠忌法要」への意識向上を図るという目的が達成された法要であったことを、うれしく思ったことでありま

教区だより

2010年10月

- 2日 海草組お待ち受け法要
- 2日 勤式講習会 (鷺森別院)
- 5日 臨時教区会
- 7日 安穏灯火りレー
- 9日 仏婦聞法の集い
- 16日 勤式講習会 (日高別院)
- 28日 近同推寺婦研修会 (本山/～29)

11月

- 6日 勤式講習会 (鷺森別院)
- 10日 第10回布教団連続法座
- 16日 仏婦別院清掃奉仕

- 20日 和歌山北組お待ち受け法要
- 20日 勤式講習会 (日高別院)
- 30日 近畿寺婦研修会 (大阪)

12月

- 1日 社推協街頭募金
- 4日 勤式講習会 (鷺森別院)
- 9日 第3連区ビハラー研修会 (京都)
- 13日 近畿仏婦大会 (京都)
- 14日 同朋運動60周年大会 (本山)
- 18日 勤式講習会 (日高別院)
- 27日 御用納め

別院だより

鷺森別院

【別院こども会】

毎月第2土曜 午前10時～12時
開催日 10月9日、11月13日、12月11日

【親鸞聖人750回大遠忌法要】

- 11月24日 午後1時30分～
- ～28日 ※28日のみ午前11時～
- 11月24日 加藤順教師 (大阪教区)
- 25日 "
- 26日 北島晃融師 (東北教区)
- 27日 森本覚修 (滋賀教区)
- 28日 子どもの集い

【常例法座】

- 毎月15・16日 午後1時30分～
- 10月15日 河野真徳師 (大分教区)
- 16日 永原智行師 (和歌山教区)
- 11月 谷川秀一師 (兵庫教区)
- 12月 藤本文隆師 (奈良教区)

日高別院

【報恩講】

12月4日～6日 午後1時30分～小村賢昭師 (大阪教区)

【除夜会】

12月31日 午後11時30分～

総局巡回
活発に意見を交換

去る8月6日、鷺森別院において「親鸞聖人750回大遠忌に関する協議会」が開催された。当日は、橋総長をはじめ本多総務、中尾総局公室長など7人の総局員が巡回し、教区内門信徒、僧侶ら80人が出席した。



協議会では、明年に迫った宗祖750回大遠忌法要の詳細や宗門長期振興計画の現況と展望の報告があり、特に振興計画の推進事項である「基本法規の整備」に関しては、宗門基本法規制定調査会の答申書をもとに協議が進められ、参加者からは様々な質問や意見が出され、活発な話し合いの場となった。

寺婦研修旅行 (1泊2日)
「因幡の源左さんをたずねて」

教区寺族婦人会連盟では、去る6月29日～30日、鳥取県願正寺へ「因幡の源左妙好人」の足跡を訪ね、30人の寺族婦人が研鑽を深めた。

2日目は、庭園の美しさで知られている足立美術館を訪れ、皆、新緑の見事な庭園に癒され、心を奪われていた。

得度

- 蓮下雄大 (海南組 西光寺)
- 北山 覚 (有田南組 最勝寺)
- 釘貫 暁 (和歌山組 西光寺)
- 吾勝常和 (加茂組 真教寺)
- 下間朋子 (和歌山東組 信楽寺)

教師

岡本隆明 (御坊組 圓満寺)

逝去

- 鈴木 稔 和歌山北組 蓮乗寺
- 坊守 平 平成22年6月10日
- 松本了信 伊那組 蓮乗寺
- 前任職 平成22年7月14日
- 亀井義博 有田北組 發願寺
- 住職 平成22年7月21日

ご生前のご活躍ご尽力に感謝申しあげ、謹んで敬申の意を表します。

本年も夏休みの期間中に、各組・各寺院で子どもの集い（キッズサンガ）が開催されましたので、その模様を特集いたします。なお、他にも開催した組・寺院があれば、投稿並びにお知らせください。

猛暑に負けず、元気いっぱい

海草組

80人が熱い1日



8月3日に海草組「子どものつどい」が報徳寺で開催されました。今回で第5回目を迎えた41人の子どもたちと引率・スタッフを含めて80人以上が一堂に集い熱い一日を過ごしました。今回の目玉は、「子どももお待ち受け法要」です。

午前中にたっぷり時間をとって、お勤め・作法の練習をしました。午後からは「子どももお待ち受け法要」。みんなで「正信念仏偈」をお勤めし、子どもたち一人ひとりが正しい作法でお焼香することができました。子どもたちは最後まで足をくずさず、経本をしっかりと持って、大きな声を出してお勤めができました。それから全員が作法通りにお焼香が出来たことにはただただ感心させられました。

『子どももお待ち受け法要』

このほかゲームではひもを使った遊び、紙で作ったルービックキューブなどで遊びました。昼食は定番のカレーライスをいただき、また毎年好評のウォーク・ラリーで汗を流しました。最後に2年ぶりの流し素麺です。今回は冷たい水が流れる工夫をし、みんなで美味しくいただきました。

先日、あるご門徒の方が法事の時お焼香をする子どもから「お父さん違うでこうするの」と怒られた、と話してくださいました。「キッズサンガ」を開催してきた一つの成果の現れです。阿弥陀さまは子どもたちを通じて私たちに教化していただいていることに気づかされます。

（報徳寺住職 長谷川義昭）



- ① おつとめ 十二礼
 - ② 法話
 - ③ マジックショー
 - ④ 折紙（紙飛行機）
- 組会において、内容等が話し合われ、組内の寺院住職をはじめ坊守、門信徒が参画した。参加者は総勢56人（児童23人、スタッフ8人、引率25人）、内容は上記の通り。

和歌山北組
56人

8月22日、教願寺において、第1回「和歌山北組子どものつどい（キッズサンガ）」が開催された。

教区内各地で「キッズサンガ」

有賀組 過疎地に子どもたちの声



去る8月8日、有田郡有田川町中、照圓寺において、第三回有賀組キッズサンガ(子どもの集い)が開催され、19人の子どもたちが集合しました。昨年の第2回に引き続き同寺を会所としての開催でありましたが、参加児童19人中10人が昨年参加した児童ということ、お寺に慣れて昨年以上に積極的に、お参りの作法や仏歌の練習、レクリエーションに参加、取り組んでいました。

組内寺院住職、寺族婦人、仏壯、仏婦、引率者、会所寺族等15人の協力のもと、午後1時より開会式「あいさつ、ちかいのことば」の後、献灯・献華。「らいはいのうた」のおつとめ。その後、歌唱・踊りの指導、お参りの作法等指導、紙芝居「しんらんさま」、レクリエーション「スーパールボールすくい、輪投げ、くじ、魚釣り」と行事が続ぎ、メインイベント「お餅投げ・お餅拾い」で盛りあがりしました。閉会式では「恩徳讃」を唱和しました。

当日は、真夏の猛暑の中であったが、天候に恵まれ、様々なイベントを通じて交流が深まり、平素は過疎化により子どもたちの声がほとんど聞こえないお寺に、久しぶりに19人もの子どもたちの楽しそうな声が高らかに聞こえるなど、「子どもたちにとつて楽しく思い出に残る1日」であり、意義深い集いとなり、誠に喜ばしいことであります。(組長 笠井 照導)

お寺に1泊 伊那組 大光寺・徳円寺



8月23・24日の2日間、伊那組大光寺で「子どもつどい(一泊サマースクール)」が開催されました。このつどいは、2008年

7月31日、光専寺で第3回「日高組子どもつどい」が開催され



日高組 56人

伊那組キッズサンガを当寺において一泊にて開催したことをきっかけとして、以降、毎年夏季に開催しているものです。今年は、15人の児童がお寺で一泊し学びを深め、交流を深めました。内容は左記の通り。

初 日

- ①開会式
- ②ゲーム (間違探し、パネルシアター等)
- ③夕食 (カレーライス)
- ④ビデオ鑑賞 (仏典物語)
- ⑤花火大会

二 日 目

- ①ラジオ体操 ②鐘つき
- ③掃除 ④朝のおつとめ
- ⑤朝食 ⑥工作 ⑦閉会式

ました。参加者は、56人(児童33人、スタッフ等23人)。

内容は左記の通り。

- ①おつとめ (真宗宗歌)
- ②三つのやくそく
- ③ゲーム
- ④製作
- ⑤パネルシアター
- ⑥カレーライス
- ⑦よみきかせ
- ⑧スーパールボールすくい
- ⑨お供えのお土産 (おもちゃ)
- ⑩くじ引き

聖人流罪の地でお心を味わう 仏婦幹部研修・29人

7月4日から6日、上越・国府へ
教区仏婦幹部研修旅行(恵信尼さまを
訪ねて)を各組会長・役員29人参加の
もと実施した。今回の研修旅行は、
「糸しんの里」が改修整備されたこ
とを機縁に、恵信尼さまの生涯から
お念仏の学びを深め、親鸞聖人流罪
の地、居多ヶ浜へ向かい、苦難の中
を生き抜かれ、お念仏を伝え弘めた
聖人のお心を味わった。



また、国府別院では報恩講のご縁
にも遇わせていただき、国府教区仏
婦会員との交流会、別院沿革説明な
ど、有意義な時間を過ごした。期間

中、参加者同士の親睦や意見交換な
ど、充実した研修旅行となった。

17回「平和の集い」開く 300人が参拝

本年も7月9日に、第17回「平和
を希う念仏者の集い」が開催され、
各組より300人が参拝した。

「追悼法要」では、「正信偈」をお
勤めし、続いてかりようびんが鷺森
のコーラスとともに、加茂組光輪寺
住職小島義英先生指導のもと、全員
で仏教讃歌を唱和した。

また記念講演は、講師に映画監督
で、ドキュメンタリー作家の森達也
さんを迎えた。

森師は、自身のオウム真理教への
取材から見えてきた日本社会のあり
さま様、また、メディアや集団意識
に左右されずに善悪をとらえること
の大切さを話した。

参加者一同、平和への希いを深め
る集いとなった。

児童念仏奉仕団 酷暑の中72人が参加

今年も本山で恒例の児童念仏奉仕
団が7月21・22日に実施され、和歌
山教区からも72人の子どもたちが参
加。境内の清掃奉仕・お勤め、本願



寺冒險王と称して本願寺内の探検や
ゲームを楽しむなど、貴重なひと夏
を体験した。当日は、蒸し暑い中、
子どもたちは、汗をいっぱいかきな
がらスタップと元気に走り回ってい
た。

二日目の日程が終了した後、今回
は太秦映画村を散策した。お化け屋
敷では暑いなか子どもたちは、肝を
冷やしていた。

二日間の日程を終えて子どもたち
は、「楽しかったね、来年もまた参加
しようね」と帰宅の途についた。

真宗青年の集い・神戸 大遠忌法要をお勤め

8月6日から7日にかけて、毎年
恒例の「全国真宗青年の集い」が近

畿6教区担当で開催された。大会初
日は、本願寺神戸別院本堂において
親鸞聖人750回大遠忌法要「宗祖
讃仰作法」をお勤めし、その後、
5・6人の班に分かれてウォーク・
ラリーを行った。真夏の日差しをあ
びながら、各班が協力して南京町や
異人館、神戸港などを巡り、ゴール



の神戸ポートピアホテルへ向かった。
二日目の「みんなでしゃべれば」
では新門様も加わり、日頃の思いや
悩みなどがざっくばらんに生まれ、
活気あふれる話し合いの場となった。
この大会には、全国各地から49
5人が参加した。